

文学研究科

人材養成に関する目的、教育研究上の目的

◆人材養成に関する目的

文学研究科博士課程（前期）は、キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の高度な理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とし、研究・教育職並びに高度に専門的な業務に必要な研究能力及び豊かな学識を養い、現代世界の全体を視野に置きつつ、人間と文化の本質を洞察して新たな時代を切り開く有能な人物を世に送り出すことを目指す。

哲学専攻

哲学専攻博士課程（前期）は、西洋哲学及び倫理学をはじめ、広く宗教から現代思想、現代文化、世界と人間をめぐる現代の諸問題について、語学力、読解力、概念把握力、問題分析力の徹底的な研鑽をとおして、古典研究の基礎的資質と思想文化全般にわたる知識と洞察力、さらに発展的に新たな問題を主題化できる構想力を身につけて、研究者、専門的職業人として研究機関をはじめ広く高度知識社会に活躍する人物を養成することを目的とする。

修士（哲学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（哲学）の学位を授与する。

- ◎哲学・倫理学の高度な専門的知識を中心として、思想、宗教、文化について深い理解と教養をもとに、流動的な社会に対して、鋭い批判的洞察をもち、柔軟で適切な対応ができる（知識・技能）。
- ◎根本的思索の訓練をとおして、高度知識社会のなかで新たに問うべき課題を構想し、的確な判断と明晰な表現によって、変遷の激しい社会に対して問題を提起できる（思考力・判断力・表現力）。
- ◎古典の精確な読解によって、深い人間理解とモラル、さらに、公共性と先見性を身につけられる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- ◎哲学専攻は、そのディプロマ・ポリシーに従って、甲類科目と乙類科目からなるカリキュラムを編成し、修了に30単位以上の履修を課して、哲学・倫理学の高度な専門的知識と鋭い批判的洞察力とを修練できるようにしている。
- ◎甲類科目には、哲学専攻の基幹科目である、理論哲学、実践哲学、現代哲学を配置している。その履修をとおして、哲学の根本的な問題にどのように挑むのか、その態度を専門性という見地から培う。甲類科目には哲学史関連の科目もあり、通時的な視点から哲学の諸問題を見つめる力の涵養にも力点を置いている。乙類科目では、視野を広げて、歴史、社会、倫理、宗教、教育といった領域の諸課題を、甲類科目で養う哲学的視座から発展的に考察する。甲類科目と同じように、乙類科目にも、哲学的視野を身に付けるための科目を置いている。

各科目群で養成する学力

- ◎甲類科目と乙類科目には、講義科目の特講と演習科目の演習がある。特講では、哲学と倫理学の根本的な問題を巡って、知識と研究の高い専門性に触れる。演習では、それを踏まえ、能動的で積極的な参加をとおして、各科目が照準を定めている主題の批判的な洞察に磨きをかけていく（知識・技能）。
- ◎哲学では、古典的な文献の精緻な理解は避けられない。甲類科目と乙類科目にある哲学史及び思想史に関連する科目は、そこに狙いを定めている。古典は、現代に通じるものの見方と考え方、ならびに、深い人間理解の範型を提示している。こうした科目をとおして、哲学の礎である古典の丹念な研究を進めていく。

その中で、人間のあり方を現代の社会のなかで問うていく（主体性・多様性・協働性）。

前期課程生は、みずからの関心と興味に基づいて、甲類科目と乙類科目の中から、履修する科目を選択する。その学びは、どのような科目であっても、前期課程生がみずから選んだ研究の主題の専門性を高めることに繋がっている。それは、同時に、哲学的な問題を論理的な分析によって徹底的に考究していく力を育む訓練にもなっている（思考力・判断力・表現力）。

- ◎教育課程のこうした考え方のもとで、総合演習2単位を必修にし、基幹科目である甲類科目から講義4科目と演習4科目で12単位、展開科目である乙類科目をも含めて16単位以上を履修条件とする。この条件により、時代ごとの哲学史的知識と分野ごとの主題的知識とを組み合わせ、総合的で高度な専門的知識をもてるように啓発する（知識・技能）。
- ◎総合演習のねらいは、在籍する前期課程生の研究発表への質疑応答を通じて、状況に応じた的確に判断できる力と、明晰な表現によって問題を主題化できる力とを修得させるところにある（思考力・判断力・表現力）。
- ◎指導の必要に応じて他研究科、他専攻の科目の履修を認可し、思想、宗教、文化について、教養を深められるようにしている（知識・技能）。このように多様性も担保した専門的な学びをとおして、深い人間理解に裏打ちされた公共性と先見性を育む（主体性・多様性・協働性）。
- ◎前期課程の教育課程には「論文」として修士論文の制作を配置している。修士論文の提出がなければ、修士（哲学）の学位を取得できないことは、言うまでもない。2年間の学びの集大成が修士論文である。ここでは、主題に関連する知識の専門性とそれに関する考察の深さ、主題に対する多面的な考え方、現代を見つめるまなざしと論究の現代性を問う。

英文学・英語学専攻

英文学・英語学専攻博士課程（前期）は、同志社英学校以来の伝統と現代のグローバリズムに基づき、英米文学と英語学・英語教育、およびこれらの関連分野における深い専門知識、鋭い分析・論理的判断能力と高度な英語運用能力を備えた人物の養成を目的としている。グローバル社会に通用する専門知識、高度な実践的英語運用能力、学術的および学際的思考力・表現力・判断力を身につけ、国内外の後期課程に進学し、将来高等教育機関において研究・教育に深く携われる人物や、中等教育機関の教育を担う広範な視野と実践的な能力を備えた英語教員、そして英語を媒介として文化形成や伝達事業に参画できる人物を養成することを目的とする。

修士（英文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（英文学）の学位を授与する。

- ◎英米および英語圏の文学とこれらの関連分野において深い学術的知見に基づき、広範で専門性が高い知識を得ることができる（知識・技能）。
- ◎専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な高度な英語運用能力を習得し、それを有効に活用できる（知識・技能）。
- ◎グローバル社会において、文学やそれに関連する分野の分析を通じて、国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。
- ◎課題解決方法や理論を、国内外における学術会議等において、精緻な英語表現により、論理的に提示できる（思考力・判断力・表現力）。
- ◎グローバル社会において、文学や文化の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、他者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- 英米文学研究において、グローバル社会の多様性や学術的に深い知識、客観的に調査する技術、および高度な英語表現能力が備わる人物を養成するために、基本的な専門知識と分析能力を養う甲類科目と、個別分野に対する知識の深化とその応用能力を養う乙類科目、および論文によって構成され、専門性を段階的に履修するカリキュラムを設置する。甲類科目からは12単位、甲類（甲類として挙げた科目は除く）・乙類を合わせて18単位以上を履修し、合計30単位以上を履修し、「論文」を登録し、必要な研究指導を通算1年以上受け、修士論文を提出し、合格することを求める。

各科目群で養成する学力

- 甲類科目は、英米文学の領域における専門的知識を身につけ、研究対象に対する鋭い分析や批判を行える能力を身につけることを目標とする。乙類科目は、英米文学の領域における個別分野に対する理解を深めることを目標とする。乙類科目より1年次に「英語修辞法」を履修し、英語論文作成技能を習得する。また、指導教員の指示により、1年次秋学期に「英米文学演習Ⅰ」、2年次春学期に「英米文学演習Ⅱ」を必修することにより、修士論文作成に必要な専門的知識、学術的リサーチ能力、学術的分析能力、高度な英語表現能力を養う。指導教員が必要と認めた時は、乙類科目として、他専攻、他研究の関連科目を履修することができる。その場合、8単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる（知識・技能）。
- 英米文学に関する甲類科目および乙類科目を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、口頭発表とペーパー作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、修士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。
- 英米文学に関する甲類科目および乙類科目を通じて、多様な学術的見解を自ら受容・尊重する姿勢を身につけるために、自発的に意見を構築し、他者と意見交換をする少人数制の演習科目を履修する。また、研究のテーマ上、本人が必要と確信し、指導教員が必要と認めた時は、乙類科目として、他専攻、他研究科の関連科目を履修することができる。その場合、8単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる（主体性・多様性・協働性）。

修士（英語学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記で資質・能力を備えた学生に修士（英語学）の学位を授与する。

- 英語学・英語教育とこれらの関連分野において深い学術的知見に基づき、広範で専門性が高い知識を得ることができる（知識・技能）。
- 専門分野において客観的に調査する技能を備え、グローバル社会において必要不可欠な高度な英語運用能力を習得し、それを有効に活用できる（知識・技能）。
- グローバル社会において、英語学や英語教育及びそれに関連する分野の分析を通じて、国際的課題を積極的に発見し、学術的考察を重ね、適切な解決方法や理論を判断できる（思考力・判断力・表現力）。
- 課題解決方法や理論を、国内外における学術会議等において精緻な英語表現により、論理的に提示できる（思考力・判断力・表現力）。
- グローバル社会において、言語の多様性を尊重し理解を深め、さらに学術的に諸問題に対して主体的に取り組み、他者との協調により解決することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- 英語学・英語教育研究において、グローバル社会の多様性や学術的に深い知識、客観的に調査する技術、および高度な英語表現能力が備わる人物を養成するために、基本的な専門知識と分析能力を養う甲類科目と、個別分野に対する知識の深化とその応用能力を養う乙類科目、および論文によって構成され、専門性を段階的に履修するカリキュラムを設置する。甲類科目からは12単位、甲類（甲類として挙げた科目は除く）・乙類を合わせて18単位以上を履修し、合計30単位以上を履修し、「論文」を登録し、必要な研究指導を通算1年以上受け、修士論文を提出し、合格することを求める。

各科目群で養成する学力

- 甲類科目は、英語学・英語教育の領域における専門的知識を身につけ、研究対象に対する鋭い分析や批判を行える能力を身につけることを目標とする。乙類科目は、英語学・英語教育の領域における個別分野に対する理解を深めることを目標とする。乙類科目より1年次に「英語修辞法」を履修し、英語論文作成技能を習得する。また、指導教員の指示により、1年次秋学期に「英語学演習Ⅰ」、2年次春学期に「英語学演習Ⅱ」を必修することにより、修士論文作成に必要な専門的知識、学術的リサーチ能力、学術的分析能力、高度な英語表現能力を養う（知識・技能）。
- 英語学・英語教育に関する甲類科目および乙類科目を通じて、専門領域のテキストと学術論文を精読し、それに基づいた議論を構築し、参考文献として必要な学術論文を選択し、口頭発表とペーパー作成を通じて、思考能力・判断能力・表現能力を養う。その成果として、修士論文を完成させる（思考力・判断力・表現力）。
- 英語学・英語教育に関する甲類科目および乙類科目を通じて、多様な学術的見解を自ら受容・尊重する姿勢を身につけるために、自発的に意見を構築し、他者と意見交換をする少人数制の演習科目を履修する。また、研究のテーマ上、本人が必要と確信し、指導教員が必要と認めた時は、乙類科目として、他専攻、他研究科の関連科目を履修することができる。その場合、8単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる（主体性・多様性・協働性）。

文化史学専攻

文化史学専攻博士課程（前期）は、過去における人間活動のあらゆる領域における事象を対象として、史料の分析にもとづく深い洞察と批判の能力、さらには歴史像を提示する創造的な構想力や豊かな表現力を身につけて、人類の歴史に関するよりよい理解に貢献する研究者・教育者、あるいはかかる資質を応用的に活かして市民社会や国際社会の融和と発展のために活躍する社会人を養成することを目的とする。

修士（文化史学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（文化史学）の学位を授与する。

- 学術的な歴史研究を一定程度自立的に遂行するのに必要な専門的知識（研究上の主要な概念や方法、およびそれらをめぐる論争に関する知識等）と基幹的能力（外国語や漢文等）を備え、特定の事象に関する史料を客観的に分析してその時代や社会・文化の特質を深く理解できる（知識・技能）。
- 特定の歴史的事象を深く考察する思考力と、日本と世界の歴史的展開を眺望できる広い視野を持った歴史の見方を身につけ、そこから得た知見が社会において活用されることを目指して研究の発信に従事することができる（思考力・判断力・表現力）。
- 現代の日本と世界の形成に寄与した多様な構成要素の歴史的役割を適切に評価し、市民社会・国際社会の調和に資する要素を有する歴史像を主体的に構想することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- 学術的な歴史研究を一定程度自立的に遂行できる人物を養成するために、甲類と乙類から構成されるカリキュラムを設置する。
- 甲類科目では、歴史研究全般に関する知識と技能を（8単位以上）、乙類科目では、特定事象の考察を通じた歴史的思考力と視野の広い歴史観を（乙類科目と合わせて32単位以上）、さらに修士論文では主体的な歴史像の構築方法を学ぶ。

各科目群で養成する学力

- 甲類科目のうち総合演習を除く科目は、学術的な歴史研究の遂行に必要な専門的知識を養う（知識・技能）。
- 乙類科目のうち演習を除く科目は、特定事象の歴史研究のあり様を学ぶことによって、時代や社会の特質を深く理解する能力を養う（知識・技能）。
- 甲類科目の総合演習は、学生と担当教員の全員の出席のもとで、学生が研究発表を行い、専門的歴史研究にふさわしい論理構成や表現能力の錬磨を行うとともに、出席者間での討議を通じて批判的思考力を培う。乙類科目の演習は、設定された課題について史料の分析にもとづいた構想能力を養う。他専攻・他研究科の歴史関係科目を乙類科目として算入することによって、幅広い視野の歴史観を育成することもできる（思考力・判断力・表現力）。
- 修士論文は、学生各自が課題を発見し、多様な解釈の意味を咀嚼しながら、学術研究として適切な史料を渉猟・分析し、それにもとづいて時代・社会の歴史像を創造的に提示する（主体性・多様性・協働性）。

国文学専攻

国文学専攻博士課程（前期）は、古代・中世・近世・近現代の日本文学及び日本語について、作品の実証的研究や理論的研究、国際的視野に基づく比較研究、芸能・演劇等の隣接諸領域を視野に入れた研究、京都という地理的環境を生かした研究などをとおして、日本文化について豊かな専門的知識や知的洞察力を身につけて、中学校・高等学校教育、マスコミ・出版関係、専門の研究等において活躍する人物を養成することを目的とする。

修士（国文学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（国文学）の学位を授与する。

- 日本文学・日本語に関する課題の解決方法について、文献の探索や読解のための専門知識や技能を備え、専門的学術研究の立場を広く理解できる（知識・技能）。
- 日本文学・日本語に関する課題について、専門的学術研究の立場から問題点を探究する知的洞察力を身につけ、課題解決のための会議において意見を効果的に表明できる（思考力・判断力・表現力）。
- 日本文学・日本語に関する課題を専門的学術研究の立場から主体的に解決するために、他者と広く意見を交わし、多様な視点を養い、協働的に研究できる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- 日本文学・日本語に関する課題を専門知識や知的洞察力を用いて解決することに貢献できる人物を育成するために、自身の研究テーマに係る課題を解決するために必要な学力を養成する甲類科目および研究に必要な幅広い知識・能力を養成する乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。

各科目群で養成する学力

- 甲類科目は、日本文学・日本語に関する専門的学術研究に必要とされる文献の探索や読解などの知識・技能に習熟し、それをもとに学術的判断や表現ができることを到達目標として設置する。1年次から2年次にかけて講義形態の授業5科目10単位以上、演習形態の授業5科目10単位以上を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
- 甲類科目のうちに総合演習を設置して、主体的に課題を解決する資質と研究に必要な表現力や多様な視点・協働性を養う。受講者は、各自の研究課題を多様な視点を持つ履修生および教員の全員と相互批判しながら進展させることを到達目標とし、上記とは別に1年次から2年次にかけて2科目4単位以上を履修する（思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
- 乙類科目は、研究に必要な幅広い知識・技能や思考力・判断力を養うために、日本文学・日本語の専門領域およびその関連領域に関する科目として設置する。乙類科目においては専門的学術研究に習熟することを到達目標とし、1年次から2年次にかけて講義形式の授業4科目8単位以上を履修する（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。
- 修士論文において、身につけた知識・技能や思考力・表現力を駆使し、日本文学・日本語についての専門的学術研究に貢献する成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力）。

美学芸術学専攻

美学芸術学専攻博士課程（前期）、修士（美学）は、美学・芸術学・芸術史（美術史）について、西洋・東洋（日本）の美や芸術の本質や原理に関する普遍的なアプローチと芸術諸分野に関わる個別的なアプローチを相互補完的に学ぶことによって、精深な学識、高度な研究能力、柔軟な思考力、鋭敏な分析力、並びに豊かな表現力を身につけて、美術館・博物館の学芸員や文化行政及び民間での文化支援活動に関わる高度専門的職業人を養成することを目的とする。

修士（芸術学）は、美学、芸術学、芸術史（美術史）について、西洋・東洋（日本）の美や芸術について、理論と専門的知識とを相互補完的に学ぶことによって、精深な学識や研究能力を身につけて、美術館・博物館の学芸員や文化行政及び民間での文化支援活動に関わる高度専門的職業人を養成することを目的とする。

修士（美学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（美学）の学位を授与する。

- 西洋・東洋（日本）の美学に加えて、芸術学、芸術史についての専門的知識を身につけるとともに、その本質や原理に関する普遍的なアプローチの仕方を学ぶことができる（知識・技能）。
- 多くの情報の中から重要な問題を見出すとともに、多様な視点から柔軟かつ論理的な分析を通じて的確な推論を下し、その成果を平易かつ明晰に表現する研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
- 美学の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

各科目群で養成する学力

- ディプロマ・ポリシーに基づき、博士課程（前期）では、自らの研究テーマに関する専門知識と研究方法を深化させる科目群で構成される甲類科目と、自らの専門分野を相対化させる科目群で構成される乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。課程修了には、甲類科目の総合演習および論文指導教員の「特講」「特講演習」を必修としたうえで、甲類および乙類科目から合計18単位以上履修し、修士論文

の総合試験に合格しなければならない。

各科目群で養成する学力

- 甲類科目にある「特講」および「特講演習」を1年次から2年次にかけて8単位以上履修することによって、西洋・東洋（日本）の美や芸術についての専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法に基づく研究能力を身につける（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
- 甲類科目にある総合演習を履修することによって、美学諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
- 講義中心の乙類科目を履修することによって、よりいっそう多様な専門的知識や思考方法を学ぶ（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
- 修士論文において、身につけた知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使し、研究成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

修士（芸術学）

◆ディプロマ・ポリシー

下記の資質・能力を備えた学生に修士（芸術学）の学位を授与する。

- 西洋・東洋（日本）の芸術学・芸術史に加えて、美学の専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的な思考方法を学ぶことができる（知識・技能）。
- 多くの情報の中から重要な問題を見出すとともに、多様な視点から柔軟かつ論理的な分析を通じて的確な推論を下し、その成果を平易かつ明晰に表現する研究能力を身につけることができる（思考力・判断力・表現力）。
- 芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽することができる（主体性・多様性・協働性）。

◆カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーでの資質・能力を備えるために、下記のカリキュラムを設ける。

カリキュラム編成・運営方針

- ディプロマ・ポリシーに基づき、博士課程（前期）では、自らの研究テーマに関する専門知識と研究方法を深化させる科目群で構成される甲類科目と、自らの専門分野を相対化させる科目群で構成される乙類科目によって構成されるカリキュラムを設置する。課程修了には、甲類科目の総合演習および論文指導教員の「特講」「特講演習」を必修としたうえで、甲類および乙類科目から合計18単位以上履修し、修士論文の総合試験に合格しなければならない。

各科目群で養成する学力

- 甲類科目にある「特講」および「特講演習」を1年次から2年次にかけて8単位以上履修することによって、西洋・東洋（日本）の美や芸術についての専門的知識を身につけるとともに、多様な理論的思考方法に基づく研究能力を身につける（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
- 甲類科目にある総合演習を履修することによって、芸術諸分野の多様な問題意識や方法論を他の研究者と共有し、自己の主体的な研究に生かすとともに、相互補完的に研鑽する（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）。
- 講義中心の乙類科目を履修することによって、よりいっそう多様な専門的知識や思考方法を学ぶ（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。
- 修士論文において、身につけた知識・技能・思考力・判断力・表現力を駆使し、研究成果をまとめる（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性）。

授業1週目（DOWeek）と授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法について

通常の教室での授業は13週の授業期間に受講し、残り2週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業1週目（DO Week のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載していますので、以下の URL、QR コード等から詳細を確認してください。

また、授業2週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

■ DO Week から始まる新たな学び

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



2026年度 履修登録関連資料の訂正について

「履修要項」「履修の手引き」といった科目登録に必要な資料について、訂正が生じた場合は、文学部・文学研究科ホームページにて随時周知しますので各自確認してください。

■文学部・文学研究科ホームページ

<https://letters.doshisha.ac.jp/letters/students/graduateschool.html>



文学研究科

哲学専攻

	登録コード		科目名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
甲 類 科 目	30201201		理論哲学特講Ⅰ		2	新 茂之	春学期	2	可
	30201202		理論哲学特講Ⅱ		2	新 茂之	秋学期	2	可
	30201203		実践哲学特講Ⅰ	カント『実践理性批判』の読解Ⅰ	2	中村 拓也	春学期	2	可
	30201204		実践哲学特講Ⅱ	カント『実践理性批判』の読解Ⅱ	2	中村 拓也	秋学期	2	可
	30201251		近代哲学特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201252		近代哲学特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201205		現代哲学特講Ⅰ	現象学的方法	2	中村 拓也	春学期	2	不可
	30201206		現代哲学特講Ⅱ	フッサール『事物と空間』精読	2	中村 拓也	秋学期	2	不可
	30201207		古代哲学史特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201208		古代哲学史特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201209		中世哲学史特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201210		中世哲学史特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201211		近世哲学史特講Ⅰ	レヴィナスの存在論Ⅰ	2	服部 敬弘	春学期	2	可
	30201212		近世哲学史特講Ⅱ	レヴィナスの存在論Ⅱ	2	服部 敬弘	秋学期	2	可
	30201213		社会思想史特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201214		社会思想史特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201215		科学思想史特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201216		科学思想史特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201217		理論哲学演習Ⅰ		1	新 茂之	春学期	2	可
	30201218		理論哲学演習Ⅱ		1	新 茂之	秋学期	2	可
	30201219		実践哲学演習Ⅰ	自律概念の検討Ⅰ	1	中村 拓也	春学期	2	可
	30201220		実践哲学演習Ⅱ	自律概念の検討Ⅱ	1	中村 拓也	秋学期	2	可
	30201269		近代哲学演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201270		近代哲学演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201221		現代哲学演習Ⅰ	現象学入門Ⅰ	1	中村 拓也	春学期	2	不可
	30201222		現代哲学演習Ⅱ	現象学入門Ⅱ	1	中村 拓也	秋学期	2	不可
	30201223		古代哲学史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201224		古代哲学史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201225		中世哲学史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201226		中世哲学史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201227		近世哲学史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201228		近世哲学史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201229		社会思想史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201230		社会思想史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201231		科学思想史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201232		科学思想史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201233		哲学総合演習Ⅰ		1	新 茂之 中村 拓也 鬼頭 葉子 服部 敬弘	春学期	隔週2	不可
	30201234		哲学総合演習Ⅱ		1	新 茂之 中村 拓也 鬼頭 葉子 服部 敬弘	秋学期	隔週2	不可

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講区分
	科 目	クラス							
乙 類 科 目	30201235		歴史哲学特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201236		歴史哲学特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201237		社会哲学特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201238		社会哲学特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201239		倫理学特講Ⅰ		2	倉本 香	春学期	2	可
	30201240		倫理学特講Ⅱ		2	倉本 香	秋学期	2	可
	30201241		宗教哲学特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201242		宗教哲学特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201243		教育哲学特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201244		教育哲学特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201245		倫理思想史特講Ⅰ	世俗とは何か：政治と宗教とのかかわり	2	鬼頭 葉子	春学期	2	可
	30201246		倫理思想史特講Ⅱ	人権の哲学	2	鬼頭 葉子	秋学期	2	可
	30201247		教育哲学史特講Ⅰ	教育に関する伝統主義的な観点から	2	森 久佳	春学期	2	可
	30201248		教育哲学史特講Ⅱ	教育にかんするプラグマティズムの観点から	2	森 久佳	秋学期	2	可
	30201249		社会倫理思想史特講Ⅰ		2	(本年度休講)			
	30201250		社会倫理思想史特講Ⅱ		2	(本年度休講)			
	30201263		歴史哲学演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201264		歴史哲学演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201265		社会哲学演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201266		社会哲学演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201267		宗教哲学演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201268		宗教哲学演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201255		教育哲学演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201256		教育哲学演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201257		倫理思想史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201258		倫理思想史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201261		社会倫理思想史演習Ⅰ		1	(本年度休講)			
	30201262		社会倫理思想史演習Ⅱ		1	(本年度休講)			
	30201099		論文						不可

履修方法

甲類科目中、指導教員の指示により「哲学総合演習Ⅰ・Ⅱ」2単位、ならびに講義4科目および演習4科目の12単位、合計14単位を必修し、さらに甲類・乙類科目合わせて16単位以上を履修すること。

指導教員が必要と認めた場合は、自由科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、自由科目として修得した単位は甲類科目・乙類科目のいずれにも算入しない。

英 文 学 ・ 英 語 学 専 攻

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
甲 類 科 目	30216001		古・中英語文学	中世英語英文学入門	4	大沼 由布	春学期	4	可(注)
	30216002		ルネッサンス英文学	シェイクスピア研究	4	勝山 貴之	春学期	4	可(注)
	30216003		近代英文学	イギリス小説と理論を学ぶ	4	臼井 雅美	秋学期	4	可
	30216004		アメリカ文学	アメリカン・ルネッサンスから20世紀転換期までのアメリカ文学	4	石塚 則子	秋学期	4	可
	30216006		英語学Ⅰ		4	菅原真理子	秋学期	4	可(注)
	30216007		英語学Ⅱ	認知言語学	4	菊田 千春	春学期	4	可
	30216008		英語学Ⅲ		4	能登原祥之	春学期	4	可(注)
	30216011		応用言語学研究法	応用言語学研究のアプローチとデータ分析方法	4	赤松 信彦	秋学期	4	可
乙 類 科 目	30216201	001	英米文学演習Ⅰ①		2	(本年度休講)	秋学期	2	不可
		002	英米文学演習Ⅰ②	シェイクスピアの喜劇		勝山 貴之			
		003	英米文学演習Ⅰ③			(本年度休講)			
		004	英米文学演習Ⅰ④	<i>Mandeville's Travels</i>		大沼 由布			
		005	英米文学演習Ⅰ⑤	20世紀のアメリカ短編小説を読む		山辺 省太			
		006	英米文学演習Ⅰ⑥			(本年度休講)			
		007	英米文学演習Ⅰ⑦	近現代英米文学小説研究		臼井 雅美			
		008	英米文学演習Ⅰ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅰ		下楠 昌哉			
		009	英米文学演習Ⅰ⑨	20世紀転換期のアメリカ小説研究		石塚 則子			
		010	英米文学演習Ⅰ⑩	アメリカ文学・文化研究：作品と批評		白川 恵子			
		011	英米文学演習Ⅰ⑪	イギリス散文作品研究		金谷 益道			
		012	英米文学演習Ⅰ⑫	現代イギリス演劇論：グローバリズムと同性愛		川島 健			
		013	英米文学演習Ⅰ⑬	イギリス・ロマン主義研究		金津 和美			
		014	英米文学演習Ⅰ⑭			(本年度休講)			
	30216202	001	英米文学演習Ⅱ①		2	(本年度休講)	春学期	2	不可
		002	英米文学演習Ⅱ②	シェイクスピアの歴史劇		勝山 貴之			
		003	英米文学演習Ⅱ③			(本年度休講)			
		004	英米文学演習Ⅱ④	中世英文学研究		大沼 由布			
		005	英米文学演習Ⅱ⑤	20世紀のアメリカ短編小説を読む		山辺 省太			
		006	英米文学演習Ⅱ⑥			(本年度休講)			
		007	英米文学演習Ⅱ⑦	英米文学と文学理論		臼井 雅美			
		008	英米文学演習Ⅱ⑧	アイルランド・イギリス文学研究Ⅱ		下楠 昌哉			
		009	英米文学演習Ⅱ⑨	20世紀転換期のアメリカ文学研究		石塚 則子			
		010	英米文学演習Ⅱ⑩	アメリカ文学・文化研究：歴史と社会		白川 恵子			
		011	英米文学演習Ⅱ⑪	イギリス散文作品研究		金谷 益道			
		012	英米文学演習Ⅱ⑫	近現代アメリカ演劇を読む		川島 健			
		013	英米文学演習Ⅱ⑬	イギリス・ロマン主義研究		金津 和美			
		014	英米文学演習Ⅱ⑭	19世紀イギリス小説		桐山 恵子			
	30216203	001	英語学演習Ⅰ①	認知言語学研究	2	菊田 千春	秋学期	2	不可
		002	英語学演習Ⅰ②	生成統語論研究		瀧田 健介			
		003	英語学演習Ⅰ③	応用コーパス言語学研究		能登原祥之			
		004	英語学演習Ⅰ④	英語教育学・応用言語学		赤松 信彦			
		005	英語学演習Ⅰ⑤			菅原真理子			
		006	英語学演習Ⅰ⑥	社会言語学・語用論		STEFANIE ALEXA STADLER			
		007	英語学演習Ⅰ⑦	会話分析セミナー		杉浦 秀行			
		008	英語学演習Ⅰ⑧	英語教育学		鬼田 崇作			

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
乙 類 科 目	30216204	001	英語学演習Ⅱ ①	認知言語学研究	2	菊田 千春	春学期	2	不可
		002	英語学演習Ⅱ ②	生成統語論研究		瀧田 健介			
		003	英語学演習Ⅱ ③	応用コーパス言語学研究法		能登原祥之			
		004	英語学演習Ⅱ ④	英語教育学・応用言語学		赤松 信彦			
		005	英語学演習Ⅱ ⑤			菅原真理子			
		006	英語学演習Ⅱ ⑥	社会言語学・語用論		STEFANIE ALEXA STADLER			
		007	英語学演習Ⅱ ⑦			杉浦 秀行			
		008	英語学演習Ⅱ ⑧	英語教育学		鬼田 崇作			
	30216062	001	英語修辞法 ①		2	桐山 恵子	春学期	2	不可
		002	英語修辞法 ②			菅原真理子			
	30216063		言語理論	生成文法理論	4	瀧田 健介	春学期	4	可
	30216041		英語教育理論Ⅰ	国際語としての英語と学習者方略・自己調整学習研究	4	若本 夏美	春学期	4	可
	30216042		英語教育理論Ⅱ	学習者コーパス研究	4	能登原祥之	秋学期	4	可(注)
	30216043		英語教育理論Ⅲ	第二言語語彙研究	4	鬼田 崇作	秋学期	4	可
	30216100		英語教育法	英語指導理論と実践研究法	4	能登原祥之	秋学期	4	可(注)
	30216064		作家研究Ⅰ	ヘミングウェイ研究	4	山辺 省太	秋学期	4	可
	30216065		作家研究Ⅱ	トマス・ハーディ研究	4	金谷 益道	春学期	4	可
	30216066		作家研究Ⅲ		4	(本年度休講)			
	30216067		作家研究Ⅳ	アイルランド・イギリス作家研究	4	下楠 昌哉	秋学期	4	可
	30216068		作家研究Ⅴ	メアリー・シェリー研究	4	金津 和美	秋学期	4	可
	30216073		英米文学特講Ⅰ		4	(本年度休講)			
	30216074		英米文学特講Ⅱ		4	(本年度休講)			
	30216075		英米文学特講Ⅲ		4	(本年度休講)			
	30216076		英米文学特講Ⅳ		4	(本年度休講)			
	30216077		英米文学特講Ⅴ	アンテバラム期の奴隷制／奴隷叛乱とナラティヴ	4	白川 恵子	春学期	4	可
	30216078		英米文学特講Ⅵ		4	(本年度休講)			
	30216081		英語学特講Ⅰ	An Introduction to Forensic Linguistics	4	STEFANIE ALEXA STADLER	秋学期	4	可
	30216082		英語学特講Ⅱ		4	(本年度休講)			
	30216083		英語学特講Ⅲ	会話分析入門	4	杉浦 秀行	秋学期	4	可
	30216084		英語学特講Ⅳ		4	(本年度休講)			
	30216085		英語学特講Ⅴ		4	(本年度休講)			
	30216086		英語学特講Ⅵ		4	(本年度休講)			
	30216099		論文						不可

(注) 他研究科生、文学研究科の他専攻生が履修を希望する場合は、担当教員が履修の可否を判断するために面接を行うことがある。

履修方法

甲類科目中12単位を必修し、さらに甲類、乙類科目中から18単位以上を履修すること。ただし、乙類科目から1年次に「英語修辞法」と指導教員の指示により、1年次秋学期に「英米文学演習Ⅰ」もしくは「英語学演習Ⅰ」、2年次春学期に「英米文学演習Ⅱ」もしくは「英語学演習Ⅱ」のいずれかを必修すること。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、修得した他専攻科目、他研究科科目及び高等研究教育院設置科目の単位は、8単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる。

文化史学専攻

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
甲 類 科 目	30204001		文化史学の理論	文化史学の諸問題	4	北 康宏 水ノ江和同 小林 丈広 中野 慎之 鍛冶 宏介 佐野 静代 山田 徹	春・秋学期	2	不可
	30204201		文化史研究法Ⅰ	古代末期のキリスト教とジェンダー	2	足立 広明	春学期	2	可
	30204202		文化史研究法Ⅱ	古代末期のローマ帝国と西アジア世界の変容	2	足立 広明	秋学期	2	可
	30204009		文化史学総合演習 AⅠ（日本）		2	小林 丈広 中野 慎之 水ノ江和同 佐野 静代 北 康宏 鍛冶 宏介 山田 徹	春・秋学期	隔週2	不可
	30204010		文化史学総合演習 AⅡ（日本）		2	小林 丈広 中野 慎之 水ノ江和同 佐野 静代 北 康宏 鍛冶 宏介 山田 徹	春・秋学期	隔週2	不可
	30204013		文化史学総合演習 BⅠ （西洋・東洋）		2	堀井 優 阿部 俊大 服部 伸 小野 直子 城地 孝	春・秋学期	隔週2	不可
	30204014		文化史学総合演習 BⅡ （西洋・東洋）		2	堀井 優 阿部 俊大 服部 伸 小野 直子 城地 孝	春・秋学期	隔週2	不可
乙 類 科 目	30204051		日本古代文化史特講	日本古代史研究とその周辺	4	北 康宏	春・秋学期	2	可
	30204053		日本中世文化史特講	日本中世史研究の諸問題	4	山田 徹	春・秋学期	2	可(注)
	30204055		日本近世文化史特講	江戸時代を対象とする歴史研究	4	鍛冶 宏介	春・秋学期	2	可
	30204057		日本近代文化史特講	古文書に触れながら歴史学を考える	4	小林 丈広	春・秋学期	2	可
	30204059		日本文化史特講Ⅰ	日本彫刻史	4	松岡久美子	春・秋学期	2	可
	30204061		日本文化史特講Ⅱ		4	中野 慎之	春・秋学期	2	可
	30204098		日本文化史特講Ⅲ	歴史地理学	4	佐野 静代	春・秋学期	2	可(注)
	30204063		考古学特講Ⅰ		4	水ノ江和同	春・秋学期	2	可(注)
	30204065		考古学特講Ⅱ	中世都市京都の総合学的研究	4	鋤柄 俊夫	春・秋学期	2	可(注)
	30204203		西洋古代文化史特講Ⅰ	日常のなかの政治 ジェンダーⅠ	2	栗原 麻子	春学期	2	可
	30204204		西洋古代文化史特講Ⅱ	日常性のなかの政治 ジェンダーⅡ	2	栗原 麻子	秋学期	2	可
	30204205		西洋中世文化史特講Ⅰ	西洋中世史研究の基礎	2	阿部 俊大	春学期	2	可
	30204206		西洋中世文化史特講Ⅱ	西洋中世史研究の基礎	2	阿部 俊大	秋学期	2	可
	30204230		西洋近代文化史特講Ⅰ	19世紀ドイツのカトリック社会・政治運動	2	服部 伸	春学期	2	可
	30204231		西洋近代文化史特講Ⅱ	ナチの独裁体制について	2	服部 伸	秋学期	2	可
	30204211		西洋文化史特講Ⅰ	戦後イギリス文化史	2	小関 隆	春学期	2	可
	30204212		西洋文化史特講Ⅱ	ヨーロッパ近現代史研究の最前線	2	能勢 和宏	秋学期	2	可
	30204213		西洋文化史特講Ⅲ	近世フランスにおける宗教・社会・国家	2	小山 啓子	春学期	2	可
	30204214		西洋文化史特講Ⅳ	王権と都市の交差から見る近世のフランス	2	小山 啓子	秋学期	2	可
	30204221		アメリカ文化史特講Ⅰ	世界史の中の南北アメリカ	2	小野 直子	春学期	2	可

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
乙 類 科 目	30204222		アメリカ文化史特講Ⅱ	アメリカの人種主義	2	小野 直子	秋学期	2	可
	30204223		中東文化史特講Ⅰ	イスラーム国家の商業特権と条約体制Ⅰ	2	堀井 優	春学期	2	可
	30204224		中東文化史特講Ⅱ	イスラーム国家の商業特権と条約体制Ⅱ	2	堀井 優	秋学期	2	可
	30204232		東アジア文化史特講Ⅰ（2020年度以降生のみ登録可）	中国明清時代史の史料と研究Ⅰ	2	城地 孝	春学期	2	可
	30204233		東アジア文化史特講Ⅱ（2020年度以降生のみ登録可）	中国明清時代史の史料と研究Ⅱ	2	城地 孝	秋学期	2	可
	30204079		東洋文化史特講（2021年度以前生のみ登録可）		4	古勝 隆一	春・秋学期	2	可
	30204225		東洋文化史特講Ⅰ（2022年度以降生のみ登録可）	中国の伝統思想	2	古勝 隆一	春学期	2	可
	30204226		東洋文化史特講Ⅱ（2022年度以降生のみ登録可）	中国の伝統思想	2	古勝 隆一	秋学期	2	可
	30204227		東洋文化史特講Ⅲ（2020年度以降生のみ登録可）		2	（本年度休講）			
	30204228		東洋文化史特講Ⅳ（2020年度以降生のみ登録可）	近世インド洋海域における接触と交流の諸相	2	和田 郁子	秋学期	2	可
	30204081		文化史特講		4	（本年度休講）			
	30204102		文化財学特講	文化庁文化財調査官による 文化財保護の理論と実践	4	水ノ江和同 桑波田武志 岡本 公秀 前田俊一郎 井上 大樹 山下信一郎 江戸 謙頭	春・秋学期	2	可
	30204085		日本古代文化史演習	研究発表と論文指導	4	北 康宏	春・秋学期	2	不可
	30204086		日本中世文化史演習	日本中世史研究の基礎	4	山田 徹	春・秋学期	2	不可
	30204087		日本近世文化史演習	古文書調査実習	4	鍛冶 宏介	春・秋学期	2	不可
	30204088		日本近代文化史演習	日本近現代史研究	4	小林 文広	春・秋学期	2	不可
	30204089		日本文化史特講演習Ⅰ	歴史地理学	4	佐野 静代	春・秋学期	2	不可
	30204090		日本文化史特講演習Ⅱ		4	中野 慎之	春・秋学期	2	不可
	30204091		考古学演習	考古学研究者になろう！	4	水ノ江和同	春・秋学期	2	不可
	30204092		西洋古代文化史演習		4	（本年度休講）			
	30204093		西洋中世文化史演習	修士論文作成と博士論文への展望	4	阿部 俊大	春・秋学期	2	不可
	30204100		西洋近代文化史演習	ヨーロッパ近現代史	4	服部 伸	春・秋学期	2	不可
	30204096		アメリカ文化史演習	アメリカ史研究の技法	4	小野 直子	春・秋学期	2	不可
	30204097		中東文化史演習	中東イスラーム史研究	4	堀井 優	春・秋学期	2	不可
	30204101		東アジア文化史演習（2022年度以降生のみ登録可）		4	城地 孝	春・秋学期	2	不可
	30204099		論文						不可

（注） 文学研究科生のみ登録できる。他専攻生が履修を希望する場合には、授業への適応状況に応じて、担当教員が履修の可否を判断するために面接を行うことがある。

履修方法

甲類科目より「文化史学の理論」または「文化史研究法Ⅰ」および「文化史研究法Ⅱ」のいずれか4単位、ならびに「文化史学総合演習」AⅠ・AⅡまたはBⅠ・BⅡのいずれか4単位、計8単位を必修し、乙類科目と合わせて32単位以上を履修すること。ただし、乙類科目の演習は、第2年次においていずれか1つを必修のこと。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、修得した他専攻科目、他研究科科目及び高等研究教育院設置科目の単位は、課程修了に必要な単位数に含めることができる。

国 文 学 専 攻

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
甲 類 科 目	30206201		日本文学特講Ⅰ	万葉和歌の漢字表現	2	垣見 修司	秋学期	2	可
	30206202		日本文学特講Ⅱ	中古文学の研究方法	2	岩坪 健	春学期	2	可
	30206203		日本文学特講Ⅲ		2	(本年度休講)			
	30206204		日本文学特講Ⅳ		2	(本年度休講)			
	30206205		日本文学特講Ⅴ		2	(本年度休講)			
	30206206		日本文学特講Ⅵ		2	(本年度休講)			
	30206207		日本文学特講Ⅶ	文学作品へのアプローチを考える	2	笹尾 佳代	秋学期	2	可
	30206208		日本文学特講Ⅷ	近代文学における「場」	2	西川 貴子	秋学期	2	可
	30206235		日本文学特講Ⅸ(2022年度以降生のみ登録可)	日本近現代文学研究の基礎概念	2	瀬崎 圭二	春学期	2	可
	30206209		日本語学特講Ⅰ	日本文学史の研究	2	藤井 俊博	秋学期	2	可
	30206210		日本語学特講Ⅱ	中世口語資料序説	2	山本佐和子	春学期	2	可
	30206211		日本文学特講演習Ⅰ	上代日本文学の研究方法	2	垣見 修司	春学期	2	可
	30206212		日本文学特講演習Ⅱ	中古文学の研究方法	2	岩坪 健	秋学期	2	可
	30206213		日本文学特講演習Ⅲ		2	(本年度休講)			
	30206214		日本文学特講演習Ⅳ		2	(本年度休講)			
	30206215		日本文学特講演習Ⅴ		2	(本年度休講)			
	30206216		日本文学特講演習Ⅵ		2	(本年度休講)			
	30206217		日本文学特講演習Ⅶ	文学作品へのアプローチを考える	2	笹尾 佳代	春学期	2	可
	30206218		日本文学特講演習Ⅷ		2	西川 貴子	春学期	2	可
	30206236		日本文学特講演習Ⅸ(2022年度以降生のみ登録可)	日本近現代文学研究の基礎概念	2	瀬崎 圭二	秋学期	2	可
	30206219		日本語学特講演習Ⅰ	宇治拾遺物語の言語の研究	2	藤井 俊博	春学期	2	可
	30206220		日本語学特講演習Ⅱ	抄物ヲ読マウヨ	2	山本佐和子	秋学期	2	可
乙 類 科 目	30206221		日本文学・日本語学総合演習Ⅰ	日本文学・日本語学の総合的研究	2	垣見 修司 瀬崎 圭二 藤井 俊博 西川 貴子	春学期	2	不可
	30206222		日本文学・日本語学総合演習Ⅱ	日本文学・日本語学の総合的研究	2	岩坪 健 柳川 響 大山 和哉 山本佐和子 笹尾 佳代 三宅 宏幸	春学期	2	不可
	30206223		日本文学史研究Ⅰ	文学史の功罪と可能性	2	田口 律男	春学期	2	可
	30206224		日本文学史研究Ⅱ	戦時中国と戦後日本の文学的連続性—池田克己を視座として	2	木田 隆文	秋学期	2	可
	30206225		日本文学史研究Ⅲ	平安和歌の本文と表現の研究	2	福田 智子	春学期	2	可
	30206226		日本文学史研究Ⅳ	『万葉集』の時代と創意	2	井ノ口 史	秋学期	2	可
	30206227		日本文学理論研究Ⅰ	古典受容と女訓	2	安達 敬子	春学期	2	可
	30206228		日本文学理論研究Ⅱ	芸能・御伽草子にみる古典受容	2	安達 敬子	秋学期	2	可
	30206229		日本文学理論研究Ⅲ		2	盛田 帝子	春学期	2	可
	30206230		日本文学理論研究Ⅳ	18世紀の仮名読物史—「奇談」書を中心に	2	飯倉 洋一	秋学期	2	可
	30206231		日本語学理論研究Ⅰ	日本語史上の新語	2	橋本 行洋	春学期	2	可
	30206232		日本語学理論研究Ⅱ	日本語史料論	2	宇都宮啓吾	春学期	2	可
	30206233		日本語学理論研究Ⅲ	上代・中古の可能表現の概観	2	吉井 健	秋学期	2	可
	30206234		日本語学理論研究Ⅳ	異言語接触の場としての日本	2	鈴木 広光	秋学期	2	可
	30206099		論文						不可

他研究科生、及び文学研究科の他専攻生が履修を希望する場合は、授業内容に対応可能かどうかを確認するため、担当教員による面接を行う場合がある。

履修方法

上記科目から甲類科目の講義科目は10単位以上、演習科目は指導教員の演習Ⅰ科目を含む10単位以上、総合演習から4単位以上、乙類科目は8単位以上、計32単位以上を履修すること。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、8単位までを課程修了に必要な単位数に含めることができる。

美学芸術学専攻

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
甲 類 科 目	30217401		美学特講Ⅰ	西洋の音楽観の歴史	2	大愛 崇晴	春学期	2	可
	30217402		美学特講Ⅱ	現代イタリア語音楽書の講読	2	大愛 崇晴	秋学期	2	可
	30217403		美学特講Ⅲ	ベンヤミンの『パサージュ論』	2	森田 團	春学期	2	可
	30217404		美学特講Ⅳ	ベンヤミンとハイデガー(ヘルダーリンをめぐって)	2	森田 團	秋学期	2	可
	30217437		芸術学特講Ⅰ(芸術と歴史)		2	(本年度休講)			
	30217438		芸術学特講Ⅱ(芸術と歴史)	イメージと空間	2	越前 俊也	秋学期	2	可
	30217439		芸術学特講Ⅲ(芸術と社会)	イメージの対象とメディア	2	佐藤 守弘	春学期	2	可
	30217440		芸術学特講Ⅳ(芸術と社会)	イメージの語り方	2	佐藤 守弘	秋学期	2	可
	30217429		芸術学特講Ⅴ		2	(本年度休講)			
	30217430		芸術学特講Ⅵ		2	(本年度休講)			
	30217441		芸術学特講Ⅶ(芸術と社会)	芸術と社会	2	伊達 立晶	春学期	2	可
	30217442		芸術学特講Ⅷ(芸術と社会)	芸術と社会	2	伊達 立晶	秋学期	2	可
	30217409		美術史特講Ⅰ	作品の「細部」	2	吉田 朋子	春学期	2	可
	30217410		美術史特講Ⅱ	アリオストと芸術	2	吉田 朋子	秋学期	2	可
	30217411		美術史特講Ⅲ	日本美術史の諸問題	2	河野 道房	春学期	2	可
	30217412		美術史特講Ⅳ	中国美術史の諸問題	2	河野 道房	秋学期	2	可
	30217413		美学特講Ⅰ演習	美学芸術学研究	2	大愛 崇晴	春学期	2	不可
	30217414		美学特講Ⅱ演習	美学芸術学研究	2	大愛 崇晴	秋学期	2	不可
	30217415		美学特講Ⅲ演習	フィードラーの芸術論	2	森田 團	春学期	2	不可
	30217416		美学特講Ⅳ演習	フィードラーの芸術論	2	森田 團	秋学期	2	不可
	30217443		芸術学特講Ⅰ演習(芸術と歴史)	近代以降の絵画と彫刻	2	越前 俊也	春学期	2	不可
	30217444		芸術学特講Ⅱ演習(芸術と歴史)	20世紀の美術	2	越前 俊也	秋学期	2	不可
	30217445		芸術学特講Ⅲ演習(芸術と社会)	研究対象の分析法	2	佐藤 守弘	春学期	2	不可
	30217446		芸術学特講Ⅳ演習(芸術と社会)	芸術学の方法論	2	佐藤 守弘	秋学期	2	不可
	30217431		芸術学特講Ⅴ演習		2	(本年度休講)			
	30217432		芸術学特講Ⅵ演習		2	(本年度休講)			
	30217447		芸術学特講Ⅶ演習(芸術と社会)		2	伊達 立晶	春学期	2	不可
	30217448		芸術学特講Ⅷ演習(芸術と社会)		2	伊達 立晶	秋学期	2	不可
	30217421		美術史特講Ⅰ演習	18世紀フランスのサロン批評	2	吉田 朋子	春学期	2	不可
	30217422		美術史特講Ⅱ演習	アカデミーのコンフェランス	2	吉田 朋子	秋学期	2	不可
	30217423		美術史特講Ⅲ演習	日本美術史の諸問題	2	河野 道房	春学期	2	不可
	30217424		美術史特講Ⅳ演習	中国美術史の諸問題	2	河野 道房	秋学期	2	不可
	30217427		美学芸術学総合演習Ⅰ	美学・芸術学・芸術史の諸問題Ⅰ	2	河野 道房 越前 俊也 伊達 立晶 佐藤 守弘 森田 團 吉田 朋子 大愛 崇晴 前田 朋美	春学期	2	不可
	30217428		美学芸術学総合演習Ⅱ	美学・芸術学・芸術史の諸問題Ⅱ	2	河野 道房 越前 俊也 伊達 立晶 佐藤 守弘 森田 團 吉田 朋子 大愛 崇晴 前田 朋美	秋学期	2	不可

	登録コード		科 目 名	主 題	単位	担 当 者	期 間	週時間	聴講 区分
	科 目	クラス							
乙 類 科 目	30217201		芸術哲学特講Ⅰ	ニコラ・ブリオの美学をめぐって	2	武田 宙也	春学期	2	可
	30217202		芸術哲学特講Ⅱ		2	稲賀 繁美	秋学期	2	可
	30217203		美学史特講Ⅰ	近代フランス語圏美学・芸術学	2	大橋完太郎	春学期	2	可
	30217204		美学史特講Ⅱ	ドイツ啓蒙主義美学研究Ⅱ	2	杉山 卓史	秋学期	2	可
	30217205		芸術史学特講Ⅰ		2	安田 篤生	春学期	2	可
	30217206		芸術史学特講Ⅱ	近代美術史の方法	2	罔府寺 司	秋学期	2	可
	30217207		芸術史学特講Ⅲ	日本彫刻史における観音造像の研究	2	田中 健一	春学期	2	可
	30217208		芸術史学特講Ⅳ	近世の障壁画	2	山下 義也	秋学期	2	可
	30217209		文芸学特講Ⅰ	古代ギリシアの美論と芸術論	2	渡辺 浩司	春学期	2	可
	30217210		文芸学特講Ⅱ		2	加須屋 誠	秋学期	2	可
	30217211		音楽学特講Ⅰ	ロマン派のピアノ音楽をめぐって	2	田之頭一知	秋学期	2	可
	30217212		音楽学特講Ⅱ	オーケストラ論	2	西村 理	春学期	2	可
	30217099		論文						不可

履修方法

(2024年度以前生)

甲類科目中、「美学芸術学総合演習Ⅰ、Ⅱ」計4単位と、論文指導教員の特講および演習を計8単位必修のこと。

さらに甲・乙類科目から18単位以上履修のこと。

(2025年度以降生)

甲類科目中、「美学芸術学総合演習Ⅰ、Ⅱ」計4単位と、論文指導教員の特講および演習を計8単位必修のこと。

さらに甲・乙類科目から18単位以上履修のこと。

指導教員が必要と認めたときは、乙類科目として、他専攻科目、他研究科科目又は高等研究教育院設置科目を履修することができる。その場合、修得した他専攻科目、他研究科科目及び高等研究教育院設置科目の単位は、8単位まで乙類科目の課程修了に必要な単位数に含めることができる。